

# ふるさと砂防 寺沢

埼玉県ダム砂防課 新井一樹

## 1 はじめに

ふるさと砂防事業とは、地域社会の安全で快適な生活基盤づくりの推進を図るため、個々の自然・社会特性を考慮し、かつ地域の発展計画と整合を図りながら、地域に密着した砂防事業を展開していくとともに、市町村の砂防事業に対する理解を図ることを目的とする。

事業の実施は、県が作成した砂防計画に基づく工事であって地域開発に密接に関連した砂防事業を知事の委任を受けた市町村長が行う。

## 2 寺沢の自然環境

寺沢は埼玉県西部の荒川村という山村にあり、県民休養地構想内に位置する自然豊かな溪流である。溪岸には樹齢30年から80年の広葉樹が数多く茂り、溪流内には平均70cm大きなものでは直径3mにも及ぶ巨石が至るところにあり、この自然石には表面に苔や草が生えている。

また、周辺にはザゼンソウ、カタクリ、イワタバコなど多くの植物が自生している。

魚類としてはヤマメ、イワナ、カジカ、サワガニなどが生息している。

## 3 計画の策定

このような環境の中、砂防事業を計画するにあたり、地元自治会、婦人会、自治体、生態系保護協会、漁協、水産試験場、県の関係部局からなる懇談会を数回開催し、意見を聴きこれを反映させた。

### 3.1 施工計画

現地環境を保全するため、施工区分を明確化した。

#### 保護区域

自然のままとし、資材や残土の仮置きもしない

#### 再生区域

環境への影響を最小限にとどめ、作業に支障となった石・土砂等は仮置きし、施工後は元に戻す。

#### 整備区域

砂防事業の効果を最大限に発揮させるため、十分な安全性と機能を備える設備を整備する。

### 3.2 施設計画

現地発生材又はこれに類似した自然石を使用して、護岸工、落差工、遊砂池等を整備する。

石の大きさは水衝部・背後地の状況に応じて決定する。

落差工は自然の落差をそのまま生かし、溪床の巨石を補強したり安定化させてその役目を果たさせる。

また堆砂ポケットも設け、これを淵としての機能を持たせて魚の繁殖を図る。

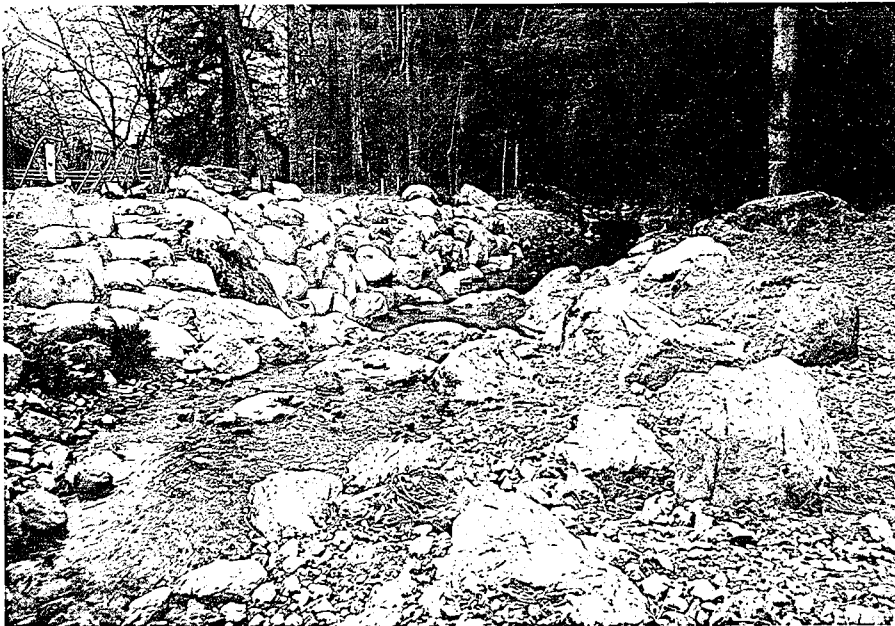
#### 4 まとめ

地元荒川村が事業主体となった工事だけに、工事中は区域内での禁煙・ゴミかご設置・魚を捕獲して上流へ放流するなど細心の注意を払いながら、官民一体となって工事を実施した。

埼玉県では、最近よく言われる「コンクリートのない川づくり」のため、ダムの上流に地場産の間伐材を張ったり、植栽ポットにツタを植えて緑化したり、自然石護岸などを実施しているが、自然環境に配慮する工事や、景観と調和のとれた施設造りのための明確な基準や指針は無く、現場担当者が試行錯誤や工夫を繰り返しながら施工している。

この寺沢でもこうした努力の結果、工事实施前と見分けがつかないほど周辺の景観と調和がとれ、かつ、土砂の流出も十分防止できる施設が実施されている。

護岸工施工後



標準横断図

